

10-10 初めて仕事を任される！ ～しかし検討方針や検討内容を決めきれずに暗中模索～

1. 立場と仕事

建設コンサルタント会社に入社してすぐに道路設計部門に配属となった。管理技術者の指導と教育を受けつつ、道路の概略設計に従事して3年が経過していた。

2. 遭遇した事態

ある時、自動車専用道路の設計業務において、管理技術者から「インターチェンジの形式検討を独りでやってみろ」と言われた。これが自ら考えて道路設計を行うように指示を受けた最初の経験であった。

早速、道路設計の教科書的存在である「道路構造令の解説と運用」等の指針類を参照しながら、インターチェンジの形式検討を開始した。しかし、いざ始めてみると、指針類には一般論しか書かかれておらず、今回の検討に必要な十分な検討項目とその条件が不明であり、また、インターチェンジ形式の比較案の優劣を判断する視点や基準も不明であった。このため、自分で色々と考えながらインターチェンジ方式を決定するための比較検討を進めてみても、検討内容の妥当性や比較検討案の客観的評価に悩み、決めきれなかった。

寝ても覚めても検討結果はおろか、検討方針や検討内容・手順すら確定する事ができず、自分の考えも堂々巡りする状態で、暗中模索の日々が続いていた。随分時が経ってから気が付いたが、この時、管理技術者は状況に気が付いていたにもかかわらず、若手である自分を鍛えるために、敢えて何も口出しをせず、忍耐強く見守っていた。

3. 対応内容とその結果

暗中模索の状態を自分だけではどうしても打開することができず、また、業務の工期にも当然限りがあったため、どのように検討を進めればよいのか正解が分からないまま、結局、管理技術者に相談することを決断した。初めて任された仕事だったので、自分独りでやり切りたい思いもあったが、検討の工期や品質を考慮して、分かったふりをしながら業務を進めるよりも、素直に管理技術者に教を請うことを選択した。

管理技術者から次の指示を受けて実行に移した。① 当該のインターチェンジがなぜ必要とされるのかを工学的視点だけでなく社会情勢・政策動向等の視点からも幅広く考慮して、果たすべき機能を設定する。② 各比較案の計画意図をそれぞれ詳細に明記して、計画意図と前記機能との関連を、評価の基準として比較検討する。③ 現地踏査および地域特性を重視する。④ 検討項目や検討手順は、指針類を参照するだけでなく、検討者自身が論理性やストーリー性を重視して決定してゆく。

指示を実行して検討を進めた結果、所定の工期内に検討報告書を作成することができ、発注者にも満足していただくことができた。